

1. 授業の基本情報・概要

対象授業の科目区分：教育学研究科（修士課程）特別支援教育専攻

科目名：発達障害検査法演習 1

担当教員名：吉松 靖文

登録学生数：17 名

LD(学習障害)，ADHD(注意欠陥多動性障害)，自閉症等の発達障害や知的障害の特性評価と支援の策定に有効な発達検査 WISC の知識・技能の習得を目的とする授業である。

授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) WISC 検査の特徴・目的を説明できる。
- (2) WISC 検査の実施ができる。
- (3) WISC 検査の結果の解釈ができる。
- (4) WISC 検査の結果から子どもの支援方針の策定や教材開発ができる。

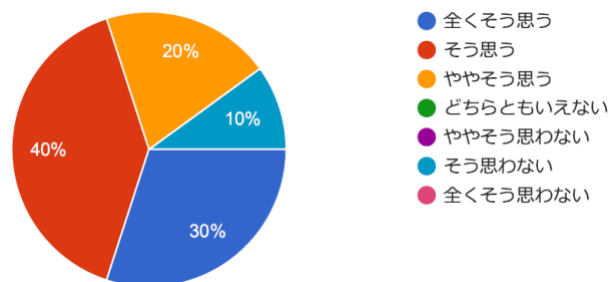
2. 授業評価・授業研究の内容

最終試験後に授業評価アンケートを実施した。以下の 5 項目について 7 件法による回答とそれぞれの回答の理由の自由記述を求めた。

1. 授業に積極的に取り組むことができましたか(積極度)
2. 授業の内容はあなたの満足いくものでしたか(満足度)
3. 授業の内容はあなたの役に立ちましたか(有用度)
4. あなたの授業の理解度はどれくらいですか(理解度)
5. 教員として働くことにとって意味のある授業でしたか(教員としての意義)

回答者数 10 名。回収率:58.9%。

1. 積極度。

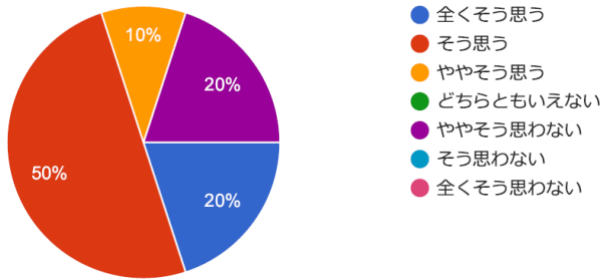


回答理由

- 現場でも活かしたいと思い、具体的な様子を思い浮かべながら学べた。
- 分からないところは、ペアで確認し合ったり、予習復習したりして理解に努めた為
- 内容が多岐にわたり興味のあるものだったから
- 見通しの持ちやすい授業展開であったため
- 実際に演習において体験できたのがよかった。
- 先生が言っていることをメモしながら授業を受けた
- 分かりやすかったので
- 進度が早くてついていけないときがあったため
- 今後重要になってくるものだから

以上の通り，多くのものが肯定的評価であったが，1名否定的な評価だった。理由は進度が速いというものであった。

2. 満足度

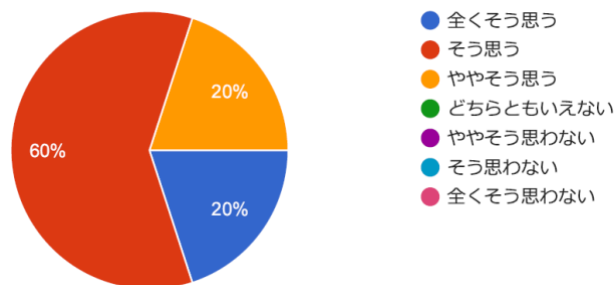


回答理由

- 検査結果の解釈、活かし方について学ぶことができた。
- もう少し演習を行いたかったが、とても勉強になった
- 興味のあるもの内容だったから
- 課題の設定等、自己学習においても適切な指示があったため
- 現場で活用しにくい検査法であっや
- まだ実感はないけれど、将来使うんだらうと思った
- 理解できました
- とくにありません
- そう思うから

以上の通り、多くが肯定的な評価であったが、2名否定的な評価だった。理由は、もとと演習がしたかったといったものであった。

3. 有用度



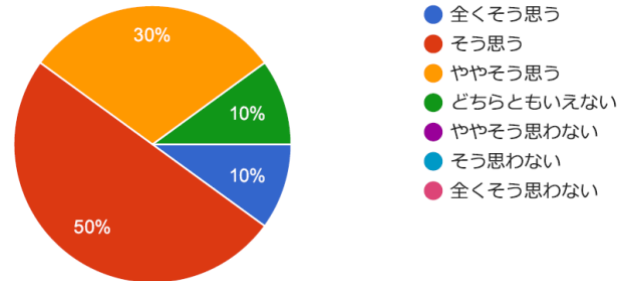
回答理由

- 検査結果をもとにして、子どもの抱える困難さに対応するための知識を得ることができた、？
- 様々な検査法を知ることができた
- 検査の方法は、学校現場で試せるようなものが多かったから
- 単位取得後も自主的に課題に取り組もうと思えるため
- 実際に体験することで新たな発見があった
- まだ実感はないけれど、将来使うんだらうと思った
- 今後の臨床に生かしていきたい

- 将来的に使うから
- 役立ちそうだから

以上の通り、回答者全員が肯定的評価であった。

4. 理解度



回答理由

- 解釈レポートを書く際、テキストなどを参考にしないと書くことができない。
- 補足資料や研究論文がありわかりやすかった
- 先生がていねいに教えてくださったから
- 授業の内容を元に単位取得後の自主学習で補うため
- 学校現場とは少し離れた内容であったが、内容は易しいものであった。
- まだ、自信がない
- よくわかりました
- 所見を書ける自信がまだないため
- ついていくのに必死だったから

多くのものが肯定的評価であったが、1名どちらともいえないと回答していた。理由はついていくのに必死だったからというものがあった。なお、回答理由の中には、別の授業に対する回答と思われるものが含まれていた。

4. 総括

前期の授業の評価を年度末に行ったため回答率が低かった。年度の終わりに回答を求めたのは、本授業が1年間の学びの中で受講生にとってどのような意義があったかを明らかにするためであった。結果は、いずれも肯定的な評価が多かった。しかし、「進度が速い」「もっと演習をしたかった」など相反する評価があった。これらの点についてさらなる授業改善が必要である。